

めでいかすとる
Médicastre



「 ヒメサユリ（姫小百合） 」

期 日：平成25年 6 月30日(日)

場 所：日本海一円

平成25年度鶴岡地区医師会春季キス釣り大会

釣り同好会会長 佐藤 洋司

上記大会が平成25年 6 月30日(日)に行われました。当日は好天に恵まれ朝からうだるような暑さとなりましたが、キス釣りの面々は早朝より目指す釣り場に繰り出し熱戦を繰り広げました。今年は磯が若いうえに一昨年多釣りした場所は工事のため入れず、砂浜からの挑戦になりました。その上、キスは小さい形が多く大物は近くには寄ってきていなくてかなり投げなければ届かず、結局標準の形が大物賞になってしまいました。今年の外道賞は、網が絡まって釣れ中にカニがいたとのことでした。



それでは結果をお知らせします。

(敬称略)

優 勝	井上 祐司	珍魚賞	兼子 俊男 (小鯛)
2 位	御橋 慶治	五目賞	清和 聡彦 (アイナメ等)
3 位	佐藤 真理子	大物賞	佐藤 真理子 (18cm)
4 位	今野 隆史	外道賞	岩根 広和 (かかった網の中のカニ)
5 位	佐藤 孝司		

平成25年度春季キス釣り大会

井上 祐司

6月30日、医師会釣り同好会恒例の春季キス釣り大会が行なわれました。天気も良く朝から暑い大会となりました。

今年は朝4時に起きて湯の浜で釣りを行いました。遠目のポイントへ向け投げるためおもりを重くし第1投目。ゆっくり手前まで巻いてみるが手応えはなし。しかし、1匹だけ釣れている。リリースするか悩むサイズのキスが。その後何回か同じように当たりも分からない状況で10匹くらいを釣りあげました。同行した人たちもふるわず、サイズも小さいまま経過していたためおもりを軽くし、小さいサイズでも当たりを楽しめるように変更。リリースサイズでもしっかり当たりを楽しみましたが、大物をめざすため湯の浜をあきらめ加茂へ移動。

加茂では数人の釣り人がいたため最初様子を見ていたが、釣り上げている人は見当たらず嫌な予感が…。海を覗き込むとすぐ近くにも小さいキスがたくさん泳いでいたが、なかなかエサに食いつ

かず、釣れるのは雑魚ばかり。嫌な予感が的中したため早々に加茂をあきらめ小波渡に移動。

小波渡は漁港の工事をしていたため投げのポイントが限られていましたが、投げてみるとリリースサイズのキスが 3 匹・4 匹と続けて釣れました。そのうち、15センチを超える標準サイズが釣れたため、期待を膨らませました。しかし、その後もリリースサイズが続き、睡魔と疲労感・空腹感に襲われ、ここで今回の釣りは終了。釣果は 21 匹、リリースした数はそれ以上。20センチを超える大物はゼロと物足りない結果となりました。

午後 3 時ころより計量開始。今回はみなさん今一だったようで 21 匹で優勝。近年 100 匹を超えた大会もあったので、参加賞をもらって終わりだと思っていましたが、まさかの優勝…。申し訳ない気持ちがいっぱいの結果でした。家に帰り子供たちに釣果を見せたら、「これだけで優勝???’と、さらに申し訳ない気持ちに…。夕食の食卓に並んだキスフライはおいしそうに食べていたので少しは救われました。

今年は時期が遅れているのか全般にキスが小さく、20センチを超えるキスを釣り上げた方はいませんでした。これからがキス釣りの本番になってくると思います。なにかとお忙しいとは思いますがたまには息抜きに釣りなどどうですか？



マイペット & マイホビー

— 第 84 回 —

夢の中のボク

佐久間医院 佐久間 文明

ボクは1999年6月15日に山形市で生まれた。今の飼い主の所に来たのは、その年の10月のある寒い日だった。当時はあまり流行していなかったトイプードルが欲しいという飼い主の意向を受け、酒田のペットショップのおじさんから知り合いに声をかけてもらい、ボクに白羽の矢が立てられたというわけらしい。

ペットショップのおじさんは「この子は山形のペットショップでディスプレイ用に置かれていた犬なんです。それを無理言って譲ってもらう事にしたんですよ。」と飼い主に説明したようだ。初めて犬を飼うことになった飼い主は舞い上がってしまい、まだ見てもいないボクを即決で飼うと決めてしまったらしい。冷静に考えてみれば、生後4か月まで店頭にいるなんて売れ残りに決まっているじゃないか！ 気づけよ、飼い主。

初めて飼い主の家に着いたのは夜の10時も過ぎた頃で、飼い主はベッドに湯たんぽを入れて待っていてくれた。しかし、緊張のあまりおしっこもでてこない。その夜ボクは寂しさもあってちょっとだけ鳴いた。でも次の日の朝には我慢できなくていっぱいおしっこをした。そうしたら、飼い主の奥さんが大喜びしたっけ。そうか、ここではおしっこをすると喜んでもらえるんだ、と学習したボク。

その家には人間のお兄ちゃんが二人とお姉ちゃんが一人いて、お姉ちゃんがボクにマリオという名前を付けてくれた。ボクには「BRAMANTE OF HAKUYO-EN」という本名があるのだが、その日からボクはマリオに



マリオ ピノコ ペコ

なった。

ボクが4歳の頃、弟分がやってきた。680gしかない白黒の小さな毛の塊だ。ピーピー鳴くうるさいやつでどうやらチワワらしかった。ボクはその当時既に去勢をしてニューハーフになっていたし、自分で言うのもナンだが実におとなしい性格のいい犬になっていたので、面倒を見る気もなかったが排除する気もなく黙って受け入れた。飼い主は「おお、なんていい子だ」とボクを褒めてくれたので、ますますいい子になろうと思ったものだった。

そして2年後、あろう事か今度は妹分がやってきた。おいおい飼い主、いいかげんにしたらどうだ。ここはペットショップじゃないんだぞ。その小さな茶色の塊もチワワらしかったが、ボクは何度も言うがいい子なので、その子もすんなりと受け入れてやった。ボクがここに来てから14年。トイプードルとは名ばかりの限りなくミニチュアプードルに近いガタイになってしまったボク。一時は7キロ近くなったボク

を見て飼い主はしきりに首をひねっていたが、甘ちょろい飼い主は「ま、いいか」とボクを可愛がってくれた。

14歳の今、ボクは目が見えなくなった。白内障というらしい。耳も聞こえなくなって、飼い主に呼ばれても気づかない。足の関節も曲がって歩くのもやっとになった。飼い主はボクの頭を撫でて「だいぶぼけちゃったねえ」とため息をつく。しょうがないじゃないか、ボクはもう夢の中にいるんだ。何も見えない、何も聞こえない、トイレの場所はわかっているんだけど、トイレの中に入っておしっこすることをしょっちゅう忘れちゃうんだ。ウンチも我慢できなくて失敗しちゃう。この間は飼い主がお出かけしている間に床にウンチをしてしまった。出かける直前にお掃除ロボットのスイッチを入れて行った飼い主は、帰ってきてから掃除機がウンチを引きずった跡のある光景を目の前にして床に崩れ落ちていた。ごめんよ、悪気はなかったんだよ。それからしばらくの間、飼い主はお掃除ロボットのスイッチを入れなかった。

今年の3月にこの家で、ある異変があった。弟分のチワワがぐったりとしたかと思えばたりと姿を消してしまったのだ。飼い主の奥さんは窓の外を見ては泣いている。あいつがいないと、家の中は実に静かだった。空気が冷えるほど静かだった。いったいどうしたのだろうと思っていたら、しばらく経ってからあいつは腹に大きなチャック模様をつけて戻ってきた。エリザベスカラーもしている。あのエリザベスカラーというやつは苦手だ。ボクも頬の腫瘍を取った時にされたが、ご飯を食べるのにも水を飲むのにも四苦八苦したものだ。あいつがぐったりした原因が2～3日わからず、腫瘍かもしれないと言われた飼い主の奥さんは毎日窓の外を見て泣いていたというわけだ。レントゲンでは写らなかった異常が、CTを撮ったら梅の種状のものがぼっちり写っていたというわけ



マリオ

で、あいつは切腹となったのだった。食い意地の張った奴め、梅の種なんぞ盗み食いしおって！今はすっかり元気になり、歩けなくなってへたり込んでいるボクを時々なめてくれたりする。うるさいがいいやつなのだ。

ヨタヨタ歩き、おしっこの失敗が度重なってついにオムツをされるようになったボク。夜中にのどが渇いて飼い主を起こしてしまうボク。でも飼い主は文句も言わず水を飲ませる為に起きて連れて行ってくれる。この間は奥さんと「死ぬまで可愛がって飼おう」と話していた。耳は遠いがそういうことはわかるのだ。日がな眠くて眠くてうつらうつらとしているボク。良く草の上を風に吹かれて走っていた時の夢を見る。あの頃は楽しかったが、今のボクも悪くない。見えず聞こえないボクを驚かせないようにそっと頭を撫でてくれる飼い主。水入れの前まで連れて行って水の場所を教えてくれる飼い主。餌入れを持ち上げて最後まで食べさせようと手伝ってくれる飼い主。そのうち、寝たきりになっちゃうかもしれないし、もしかしたら夜鳴きするようになるかもしれない。でも、この飼い主ならきっとボクを最後まで大事にしてくれるに違いない。だからボクは毎日安心して夢を見ることができる。大好きだよ、飼い主。ボクがいつかいなくなってもあんまり悲しんじやだめだからね。ボクはいつも一緒だよ。

特別寄稿

地霊の生みし人々(11) - 初代最高裁長官 三淵忠彦 (下) -

黒羽根整形外科 黒羽根 洋司

三淵忠彦が入学した当時、庄内中学は酒井伯爵邸の一部を校舎にしていた。教室の中に柱があり、隣の教室とは唐紙一枚で隔てられていた。廊下の杉戸に描かれた彩色の絵は剥げ落ちていたが、それがかえって歴史の重みを語っていた。卒業間際に立派な校舎が新築され引き移ることになるのだが、忠彦の修学の間は寺子屋にも等しい質朴なものであった。

しかし、荻生徂徠の学問を信奉し教育を尊ぶ庄内の地には、多くの優れた教師がいた。

学問の根底が出来、人間としての土台が築かれたのは、いい先生がたのお陰だと忠彦は述懐する。

友人たちと金峰山に登ったり、湯野浜へ出かけた記憶は、いくつになっても映画のように眼前に展開すると云う。なかでも、終生忘れられないのが、高山樗牛との出会いであった。忠彦は樗牛の弟・斎藤信策と懇意であったので、よく遊びに行ったり来たりしていた。既に文名を馳せていたが、まだ東京帝国大学の学生であった樗牛こと高山林太郎は夏休みに帰省すると、集まる少年たちに、いろいろな話をしてくれた。湯野浜の宿に信策と共に訪ねて話を聞いたこともあった。何を聞いたかは、ほとんど忘れてしまったが、ただ一つ覚えていることがあった。それは世界の歴史と地理を勉強する大切さと、世界と人間を知る意義を説いたものであった。

樗牛の言葉は、多感な中学生、忠彦の視野、限界を啓き、発奮を促すものとなる。やがて、法律を学び、新憲法下で法曹界の頂点を極めることなる永遠の学究には、生涯を貫く規範にもなっていく。昭和22年8月2日の最高裁判所長官就任当日の三淵の談話の中に、これがあらわれている。

「視野を広くして、政治のあり方、社会の動



三淵忠彦近影

き、世界の変遷、人心の向きように深甚の注意を払って、これに応ずるだけの見識・力量を養わなければならない。」

法科学生から法曹界へ

1898 (明治31) 年、三淵は庄内中学を卒業すると旧制二高へと進学する。わらじを履いて、荷物を肩にかけ、むすびを腰にかけ、清川から最上川沿いに関山峠を越えて仙台に着く。初日は脚が重く、二日目には足が痛み、三日目にやっと気持ちも軽くなり、踊るように仙台に乗り込んだという。

やがて、東京帝国大学法科に入学し、順調な歩みに見えた三淵だが、一時学業を中断する。両親と弟を相次いで失ったためにノイローゼ気味になり、東京が嫌になったからとも言われている。京都帝国大学法科に再び入学した三淵は、当初は新聞記者を志望していたようだ。裁判官の道を選択したのは、卒業直後に寄食した親族の石渡敏一の姿に共鳴したからである。当

時、司法次官であった石渡氏のすすめもあり、卒業の年の 12 月、裁判所に入ることになった。1905（明治 38）年、三淵 25 歳のことであった。

東京地裁判事を皮切りに、長野地方裁判所などでキャリアを積む三淵判事だが、長野勤務当時には司直のあり方に関する根源的な問題に直面させられた。いわゆる「御料林」の判例である。

御料林が紀州徳川家の領地であった頃、木曾谷の木こりたちは雑木、小木の伐採は大目に見て貰って、親子代々それで暮らしを立ててきた。その替わり、紀州家御用の伐り出し、搬出には骨身を惜しまず働いて、平素の恩に報いていた。明治になって山林が御料林になっても、生業のない木曾谷の人たちは盗伐のほかに生活の資を得る途がなかったのだ。といっても無罪にするわけにもいかないから、その結果が親も子も懲役ということになる。この裁判と政治の矛盾、建前と現実の乖離が裁判官三淵の大きな命題となった。

東京地方裁判所部長時代には、将来の日本を背負う若手裁判官が三淵宅に押しかけ、さまざまな問題について議論を闘わせた。さながら梁山泊の風であり、三淵が最も油の乗っていた時期でもあった。

裁判官も官僚の一部と考えれば、三淵が上る階梯もまた破綻のないものであった。しかし、三淵は栄達を目前にして退職をして、民間に身を置く決断をする。出世の階きざはしからすれば“踊り場”にもみえる雌伏の期間が、予想もしない運命を彼に用意することになる。

初代最高裁判所長官へ

1925（大正 14）年、三淵は東京控訴院の上席部長を最期に退官する。まだ 45 歳の働き盛りであった。すぐに、三井信託銀行に入社し役職は得るも、顧問というやや気楽な立場に身を置くことになる。突然の転職は司法の独立に疑惑を感じたとも、あるいは経済的理由とも、様々な憶測を生む。いずれにせよ、三淵の果敢さはここにも現れている。

三淵は信託法という新しい分野に取り組むとともに、実業界に転身することで裁判の不条理から解放される。小田原に居を構え悠々自適、万卷の書を読んで枯淡の境地に入る。

この間、異業種の人びととの付き合いが多くなり、人脈を一気に広げる。片山哲（のちの日本社会党委員長）にも知遇を得、意気投合する。この縁がのちの長官就任へとつながっていく。

戦後、司法省から行政権を移し、人権擁護、憲法の番人を旨とする最高裁判所が発足した。その初代の長官を誰にするかにあたっては、内部の熾烈な争いがあったが、1947（昭和 22）年 3 月、片山連立内閣が発足することで三淵忠彦が指名される。担ぎ出され方は、諸葛孔明が三顧の礼をもって劉玄徳の許に宰相として迎えられた中国の故事に全く似ている。空襲で渋谷の家が焼けたため、皇居で行われた親任式に着ていった礼装用のモーニングは借り物であったという。

三淵は民主的憲法下における裁判所の使命を徹底させ、裁判官が人事に煩うことなく業務に没頭できるよう組織改革を行った。行政官に比し待遇が劣っていた裁判官の報酬を、GHQ に交渉して画期的に改善させた。明快な審理と名文をもって鳴り、その判決はつねに当事者を納得させた。裁判官は秤のように公平無私であることを説き、“あいまい”や“ごまかし”が絶対に通らないようにした。

1950（昭和 25）年 3 月に定年退官し、その翌日洗礼を受けカトリックに入信する。同じ年の 7 月 14 日、「わが事なれり」かのように、回盲部腫瘍のために永眠する。

純粋な考え方、即断即行の性格、開放的でありながら何事にも容赦しない武士道的な厳しさは、三淵の生まれる前にまつわった諸因縁にあるとする人が多い。会津落城の大悲劇と伯父萱野権兵衛のいわれなき自刃は、三淵忠彦という人格に終生大きな影響を与えたといえよう。さらに、三淵の醇じゅんこ乎たる精神を培ったのは、日本第一の教育を受けたと自身が語る、あの庄内で過ごした 3 年半にあった。

九州旅行記③

よこやま皮膚科医院 横山 靖

今回の九州旅行の最大の目的はうまいカニを食べること。お盆を利用した旅行だったが、みなさんは「えっ、この時期にカニ!？」と思うかもしれない。本州ではカニといえばズワイガニだから11月～冬にかけて旬なのだが、九州でカニといえば、何ととってもワタリガニである。それも竹崎ガニが一番有名で、ズワイガニでいえば松葉ガニ、越前ガニのようなブランド・ガニなのである。初夏から9月にかけてオスは、冬の産卵期を控えたメスを求めて活発に動き回る繁殖期。気力、体力ともに充実した男盛りのカニである。当然、カニミソは濃厚に凝縮し、しっかりと筋肉がついた身の方も甘みが増し、まさにお盆のころはオスの竹崎ガニの旬なのである。早く、竹崎ガニを食らいつきたい思いで、JR佐賀駅から、太良町竹崎にある旅館に向かう。佐賀駅から長崎本線の特急で肥前鹿島まで行き、そこからは各駅停車で肥前大浦駅まで行くのだが、肥前鹿島に着いてみると、そこから先の各駅停車が2時間待たなければならないことがわかった。竹崎までは多少、距離はあるのだが温泉にもゆっくり浸かりたかったのでタクシーで行くことにした。肥前鹿島では、夏は有明海の干潟で、ムツゴロウ漁で使う潟(ガタ)スキーを使って、泥まみれになりながらの干潟体験もできる。また肥前鹿島の隣の駅の肥前浜宿にはモンドセレクションで金賞をとった『魔界への誘い』というおいしい芋焼酎の蔵元がある。タクシーはその蔵の前を通り、有明海沿いの道へと進んだ。このあたりの海岸は、冬はカキも有名で、竹崎に着くまでの間、



竹崎ガニ

たくさんの牡蠣小屋があった。次回は、有明のカキも食べてみたいものだ。40分ほどで目的の海上館という旅館についた。竹崎の岬の先の方にある一軒宿で、目の前は有明海、右手の遙か先には雲仙の普賢岳が見える。宿について、タクシーで来た旨を話すと、連絡をもらえれば肥前鹿島まで迎えに行ったとのこと。タクシー代は払ったが、運ちゃんにも楽しい話を聞かせてもらったから、まあいいか。宿の方は有明海に面した露天風呂付きの部屋を予約してあるのだが、部屋に案内してもらおうと、まずは大浴場の方に向かった。すると、思いがけずこの大浴場が素晴らしかった。内風呂の方も前面は窓張りで、ゆったりと海を眺めながら湯に浸かれるのも良かったが、さらに露天風呂からは有明海が一望でき、ひろびろとした風景にすっかり満足した。後日、テレ朝の土曜の朝の『旅サラダ』の『俺のひとり風呂』のコーナーで、勝俣州和が海上館のこの露天風呂に入り絶賛していた。さあ、ひとり風呂浴びた後は、一番楽しみにした夕食である。この日はビックリするような大

きなタイが取れたそうで、まずはその刺身からいただくが、これがまた真夏のタイとは思えぬ脂の乗りで、うまい。蛸はマダコで、こちらでよく食べる水ダコとは違い、しっかりした歯ごたえで味が濃い。貝の刺身もうまいし、さっきのあの素晴らしいタイの頭のかぶと煮まで出してくれた。タイに頭は 1 個しかないのだから貴重なものだが、はるばる遠路、山形県から来たのでサービスしてくれたのかもしれない。もちろん、ビックリするくらいうまかった。そして、いよいよ竹崎ガニの登場である。すっかり茹であがり、美しい橙色がかかった赤色になったカニの甲羅をはずし、もちろんカニミソから食する。いや、もう…、この濃厚なカニミソの味わいをなんと表現すればいいのだろうか。ネットリといつまでもその旨味が舌にまとわりついて、あまりの旨さにこの味をビールで洗い流すのがもったいないようだ。とにかく濃い、こちらのワタリガニの 10 杯分のミソのギュッと 1 つに凝縮したような深みのある濃さなのである。ちょっと表現は陳腐だが、海の香りのするフォアグラという感じだろうか。というのも、みなさんにご存知と思うが、カニミソは脳ミソではなく、カニの肝臓だからである。それで、ついフォアグラと書いてしまったのだが。こんなにうまいカニミソであるのだから、甲羅酒にしよう、仲居さんに日本酒を頼むと、『甲羅酒



大浴場の露天風呂（旅館のパンフレットより）



部屋の露天風呂の朝の風景

にするのは内子が入ったメス、オスは甲羅にご飯入れてカニミソとまぶして食べるのが一番！！』と地元ならではのアドバイスをいただく。さっそく甲羅に少量のご飯を入れて、よくまぶして食べると、これがまた、旨いの何んの！！ もう日本酒の肴にピッタリなのである。カニの身の方も、本来ワタリガニは繊細な肉質なのだが、竹崎ガニは力強く、甘みタップリである。もちろんカニ酢などいない。まったくとしたバターのように濃厚なカニ肉の味わいは、ズワイガニからは決して得られないものだ。竹崎ガニにすっかり満足して、いよいよ部屋付の露天風呂に入る。空は満天の星空、有明海の静かな波音が聞こえる。露天風呂に電燈はなく、明かりは小さなキャンドルとマッチが置かれているのみ。キャンドルの薄明かりの中、露天風呂につかると有明海の対岸にかすかに街の明かりが見える。福岡県の大牟田の夜景だそう。大牟田といえば、昼に訪れた柳川の近くだから、あの対岸からここまで、有明海をぐるっと旅してきたのだな～、と一人旅情に浸ってしまった。そして朝も露天風呂に入った。空は青く澄み渡り、有明海が朝日にキラキラ輝いてきれいだった。帰りは、旅館の車で肥前大浦の駅まで送ってもらった。駅は無人駅で、おば



おばあちゃんが切符を売っている肥前大浦駅』

あさんが一人いて、何か話しかけてくる。残念だが、訛りがきつすぎて何を話しているのかわからない。朝の挨拶かと思い、「おはようございます」と答え、キップ売り場を探すか…、ない！すると、またおばあさんが話しかけてきて、どうやら「どこへ行くのか」と聞いているらしい。それで、おばあさんはキップ販売の仕事を委託されているらしい、ということにやっと気が付いた。肥前鹿島までの列車はお盆なのに空いていた。たしかに博多まで戻るのが長崎から各駅停車を利用する人はいないだろう。肥

前大浦駅から太良駅にかけては有明海が一番奥まった場所にあたり、満潮、干潮の差が大きく、干潮のため干上がった小さな漁港の海底に漁船にポツンと取り残されている光景が車窓から見られる。私たちは肥前鹿島で特急に乗り換え、無事、博多駅まで戻った。空港に行く前に、博多に来たらいつも買っている『長谷川』の明太子を博多駅のおみやげショップで購入した。このあまり知られていないお店は、有名店が並ぶ明太子売場からは少し離れたはずれの一角にある。100%、国産のタラコを使い、一個一個手作りで丁寧に作っていて、とてもおいしい。最近までは博多に行かなければ手に入らなかったが、今回原稿を書くに当たり調べてみると、ネット販売も始めたようである。というわけで、3日間の旅行でダイエットを忘れ食べまくった私は、家に帰ったら、この長谷川の明太子で朝ご飯を食べ、夕食には海茸の粕漬けで酒を飲むのを楽しみに、福岡空港を飛び立ったのでした。

YBCラジオ番組「ドクターアドバイスできょうも元気」の放送について

月曜日から金曜日までYBCラジオの健康情報番組「ドクターアドバイスできょうも元気」を放送中です。

当地区の担当は下記のとおりです。ぜひご聴取ください。

【放送時間：月曜日から金曜日 6時30分～6時45分、(再放送)16時15分～16時30分】

放送日	テーマ	出演者	所属医療機関名
7月15日～19日	任意接種ワクチンで防げる子どもの病気	今立 明宏 先生	今立小児科医院
7月22日～26日	子供の中耳炎	伊藤 茂彦 先生	伊藤耳鼻咽喉科医院
7月29日～8月2日	ピロリ菌と胃疾患	佐藤 孝司 先生	宮原病院
8月5日～9日	夏の皮膚病	木根淵 智子 先生	木根淵医院
8月12日～16日	女性のライフステージと産婦人科	三井 卓弥 先生	三井病院
8月19日～23日	消化器癌の内視鏡治療～化学療法	菅原 真樹 先生	鶴岡協立病院

新入会員の紹介



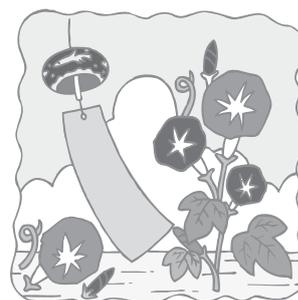
氏 名：加 藤 哲 子

生年月日：昭和46年1月14日

生まれた所・育った所：宮城県

勤務先・診療科目：鶴岡市立荘内病院中央検査科

出身校：山形大学



故 阿部 寿美子 先生のご冥福をお祈り申し上げます。

平成 25 年 7 月 1 日ご逝去 満 65 歳

弔 辞

阿部寿美子先生。先生の突然の訃報に接したとき、我が耳を疑いながら、不意をつかれたような衝撃を感じました。その衝撃は、時間がたつにしたがって虚脱感と悲しみに変わっていききました。

本当の人生はこれからというときに、道半ばにして、66歳という若さで幽明さかいを異にされたことは、先生ご自身にとりましてまことに無念なことであつたらうと存じます。私たちも、有能でかけがえのない大先生を失い、当医師会のみならず地域の皆様にとりまして、誠に残念で惜しまれてなりません。

また、ご遺族、ご親戚の方々におかれましても、お悲しみはいかばかりかと推察いたします。医師会会員並びに職員一同心からご冥福をお祈り申し上げます。

顧みまして先生の遺影をふり仰ぎますと、昭和59年3月に金沢医科大学を卒業されると、同大学付属病院の研修医として2年間近く修業を積み、昭和61年4月に同大学消化器内科に入局し、そこで5年半ほど勤務され、平成2年12月にお父上の尚文（なおふみ）先生の開業している阿部医院にお戻りになられ、平成9年7月には尚文先生がお亡くなりになったあとを引き継がれました。

温海地区は、当会の管轄地域でも特別な結束力を有する地域で、地域内の会員がお互いに信頼と協力関係を保ちながら、地域内の諸問題に対処してこられました。その中であって、先生には地域の医療、保険問題の調整については、積極的に問題解決のため、お骨折りをいただきました。また先生は、診療所としてはまれなCTやマンモグラフィなどの機材を導入されるなど、地域の医療に対しては格別な熱意と志をお持ちでした。さらに当会で警察協力医の人選

に苦慮しているときには、土曜日、日曜日の割振りにもかかわらず、率先して検死をお引き受けくださいました。

そのほか、当地域の健診事業の要である健康管理センターの地元における健診に際しては、特定健診などへの出動、乳がん個別検診、あるいは読影にもご尽力くださいました。そのほか、学校医、産業医、特養の嘱託医など数多くの役目をお引き受けいただき、ご活躍をいただきました。先生のご活動は、まさに地域の医療人の模範となるものでありました。当会主催の勉強会などの際に、いつも馳せ参じてくださったそのお姿も、昨日のこのように思い出されます。改めて心から敬意と感謝の意を表します。

いま、時世は、混乱を深め、少子高齢化の波に遭遇し、医療界においても様々な問題をかかえ、地域における医療のあるべき姿も大きく変わらなければならない課題を背負っています。

本来ならば、先生とともに手を携えてこの苦境を乗り越えてまいりたいと思っておりましたのに、本当に残念でなりません。

私たち医師会員は、先生が示された確固とした情熱と遺訓を受け継いで、地域の人々の健やかな生活を支援するため邁進してまいります。

ぜひ私たちをお見守りください。

最後に、本日の葬儀にあたり、鶴岡地区医師会を代表して、先生のご功績と遺徳を偲びながら、心からご冥福を申し上げ、お別れの言葉といたします。

阿部寿美子先生、どうか安らかに眠りください。

平成25年7月5日

鶴岡地区医師会
会長 三原 一郎

表 紙

「ヒメサユリ（姫小百合）」

石原 融

6 月下旬から 7 月中旬にかけて、朝日連峰の古寺山から大朝日岳への登山道はヒメサユリロードと呼ばれ、至る所でヒメサユリの花を見ることができます。写真は 7 月上旬に小朝日岳の近くで撮影しました。

県内には山登りをしなくてもヒメサユリを見ることができる所もあります。大江町の大山自然公園には数万株のヒメサユリが植えられており、5 月末から 6 月上旬に開花します。

編 集 後 記

全国的にはゲリラ豪雨などがありましたが、今年の鶴岡は空梅雨のようです。めでいかすとる 7 月号をお届けするころには梅雨明けとなっていることでしょうか。

6/27 は荘内病院の創立記念日でした。今年は創立 100 周年、新病院移転 10 周年の記念となる年になりました。当日は記念植樹式が行われ、ハナミズキが植樹されました。ハナミズキは約 100 年前に当時の東京市長（尾崎行雄）がワシントンに桜を送り、その返礼として日本にやってきたとのことです。皆さんご存知の一青窈のハナミズキ（君と好きな人が百年続きますように…）はアメリカの 9.11 後に平和を願って作られた曲とのことです。花言葉は“返礼”、“私の思いを受けてください”“公平にする”とのこと。創立 100 周年を迎え、気持ちを新たに当地区の医療の中核を担うように努力を重ねていくつもりでおります。医師会の皆様にはこれまでと同様にご支援、ご協力をお願い致します。

今年も 7/15 から YBC ラジオ “ドクターアドバイスできょうも元気” に当地区医師会の先生方が出演されます。皆様には是非お聞き頂きたいと思います。

(石原 良)

編集委員：伊藤 茂彦・福原 晶子・石原 良・中村 秀幸・斎藤 高志・今立 明宏

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

URL <http://www.tsuruoka-med.jp>